

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

いっしょにつくろう！ 人生100年公民館

松田 道雄

提案・公民館職員、利用市民、行政担当者、学識専門家など、多様な関係者が、いっしょになつて、人生100年時代にすべの世代の人たちが利用したくなる公民館づくりを考えましよう。

今年度末のこの連載で筆者（松田）からは、皆さんに2つの提案をしたいと思ひます。

1つは方法についての提案、もう1つは内容についての提案です。

方法についての提案は、講師や誰かが一方的に考えを伝えるという方法ではなく、受講者（学習者）が「いっしょに考えよう・つくろう」という提案です。

「人の学び」が中心内容である生涯学習関係者の大人の研修会でも、大抵、講師がパソコンからプレゼンテーションソフトのスライド投影をしながら内容について一方通行に説明し、参加受講者は、講師のスライドを印刷した資料も見ながら、黙つてその話を聞いて

います。

はたして、そのような学び方は、受講者にとつて効果的な学習方法でしょうか？ 学習者が学習効果を高めるために教育方法を日々研修している現場の代表は学校教育です。小学校の授業で、先生が授業中ずっとパソコンのスライドを見せながら説明（講義）している授業はないでしょうか。それは、学習の定着としては効果的ではないからです。話を聞いているばかりでは、ポツとする経験は、子どもだけでなく大人も誰でもあることではないでしょうか。

基本的には、学習内容について子どもたちが新たな気づきを得ていくために、先生は全体の進行役を務めながら、子どもたちが考えていくための課題を提示します。それに対して子どもたちは考え、発表し、先生が応答しながら学習内容を深め合い、子どもたちは自身の学習の定着のために、ノートなどにまとめていきます。

これを、例えば、地域で人々が学ぶ場である公民館の職員の研修

会に置き換えれば、学ぶ主役は、研修会に参加した公民館職員の方々であり、目標は、その職員の方々が、研修会後にどのような公民館の仕事に主体的に学んだことを活かすかでしょう。考えることも、行動することも、主役は、公民館職員の方々です。そうするためには、研修会の学び方も、先小学校の授業のように、学ぶ主役である受講者の方々が、考え、発言し、まとめる活動を取り入れていくことは、学習効果としては自然な方法でしょう。

そのような学習光景のふり返りから、講師が内容のすべてを事前につくつて、一方的に伝える（学習者は講師の内容を一方的に聞く）学び方ではなく、講師は当日学習者が新たに気づき考え深めるための問題提起として内容を半分示し、それをもとに残り半分の余白部分を学習者が考えるといつた、言わば、「講師と受講者がいっしょにつくろう」という学び方があつてもいいのではないかと思ひますが、皆さんはいかが思ひ

しょうか？

この原稿は新年正月に書いていますが、1月26日に行われる第66回宮城県公民館大会兼第32回宮城県公民館研究会で、この方法を提案しようと思つています。

つまり、講師を依頼された筆者は、筆者がその時間分に語りた内容を書き添えた資料をつくるのではなく、当日、参加受講者の皆さん個々人も、私の問題提起を

もとに考え、書き込みできる余白を残したシート（A4用紙4枚）をつくり、「いっしょにつくろう」と提案するのです（図1）。もう1つ、内容についての提案をします。

この宮城県公民館大会兼宮城県公民館研究会の研究主題は、「人生100年時代における公民館の役割について」です。まさに、これからの時代を特徴づける研究主題です。

これを受けて、筆者は、ずばり「人生100年公民館」という公民館像を提案することにしました。これまでの公民館は、当初の公民館の設立理念や願ひはあつても、現実的には、社会の変化（都市化、サラリーマン化、共稼ぎ化、メディア利用の普及など）に伴い、結果的に地域内の一部の人々の利用に偏りがちになつていっているという話はよく聞きます。

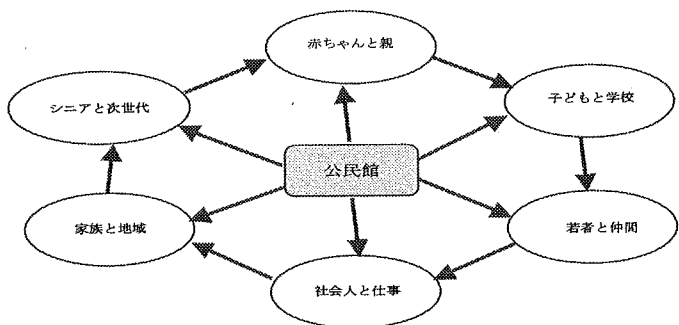
これを、これからの世代も人生100年生きる時代の中で、あらためて、地域内のすべての人の人生の中に生かされる公民館に、

毎年少しずつ転換していこう！という提案です。それはつまり、「誰も的人生の中にある公民館づくり」、人の一生のどの段階にも公民館がある姿をつくつていく提案です（図2）。この「人生100年公民館」の目標を、人生100年を生きる地域内のすべての世代の人々の幸せづくりに寄与する公民館になる！と定めて、筆者は、具体策として、10の視点を考えました。

そして、それぞれ10の視点の具体策については、いくつかは筆者からの具体策を書き、残りは余白を設けて、参加受講者の方々に、皆さん各自の考えを書き込んでもらいたいと思ひました。書き込み部分の余白があるA4用紙4枚分の「いっしょにつくろう！人生100年公民館」です。そこで筆者が提案した具体策を、全国の読者皆さんにも以下に提案紹介します。

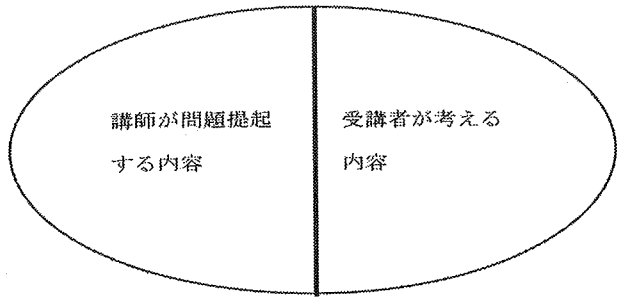
各視点に筆者が提案した項目数はバラバラです。実際の用紙には、それぞれの視点に①～⑤までをふ

図2 「人生100年公民館」構想図
だれもの人生の中にある公民館（人の一生のどの段階にも公民館がある）



り、筆者が記さない箇所は空白にして、参加受講者の方に考えてもらいたいと思ひました。本連載のここでも、気持ちだけ余白の項目を入れますので、その部分を皆さんもいっしょに考えていただければ幸いです。そして、全国の読者皆さんに紹介したい案がございましたら、ぜひお知らせください。本連載で紹介いたします。

図1 いっしょにつくろう



「人生100年公民館」具体策

1. つながる学びをつくる公民館に（長寿・孤独化社会への公民館の役割）

- ①公民館で実施するすべての学習講座などで、参加者どうしが語り合い、学び合える時間を設ける。
- ②年長者が年少者のロールモデル（生き方の手本）を見せることができる場面を設ける。
- ③人々のそれぞれのライフステージに関わる様々な団体と連携した事業を行うとともに、他団体との共催・後援などによる関連する他団体の事業提供も積極的に行い、公民館が市民の学びのハブになるように努力する。

2. 赤ちゃんと親が、この地域で、幸せな子育て時間を過ごせるような、学びを提供する

- ①親子が楽しめる時間と場を設ける。
- ②親同士が、子育ての悩みや喜びを分かち合い、つながりをつくれる。

8. 地域に暮らす人々の日常生活が、より充実したものになるような、学びを提供する

- ①世代を限定せずに多世代が交流し、助け合い・協働活動できる時間と場を設ける。
- ②学習講座などの評価が、その後の日常生活や仕事にどう活かされたかをフィードバックしてもらおう手立て（メール文など）を配慮する。

9. 地域に暮らす人々の一生を通して、より豊かな人生になるような、学びを提供する

- ①人生の節目節目に役立つ学びの機会を設ける。
- ②自分の地域の公民館を通して、他地域の公民館とつながり、他地域のひととの交流も広がる機会を提供する。

③

る機会を設ける。

- ③児童福祉関係機関や家庭教育機関などと連携して、すべての赤ちゃんと幸せに育つことができる子育て支援の場を設ける。
- ④子育てする若い親を支える地域の親先輩づくり（3世代連携）をサポートする。

3. 学校に通う児童・生徒が、この地域で、より豊かに成長できるように、学びを提供する

- ①地域学校協働活動に参加する地域人を育成支援する。
- ②学校教育ではできづらい子どもへの教育活動を実施する。

4. 若者が、この地域で、公民館でも生き方を学ぶことができるような、学びを提供する

- ①若者が情報を得るメディアなどを通して、地元の若者が学ぶことに参加したくなる事業を、同世代

④

10. 人生100年公民館を試行し続けることができるために

- ①様々な年代の職員が同じ年代者への事業を担当したり、他年代者への事業を担当することで、職員自身が、人生100年の学びを得続けることができる体制をつくる。
- ②職員各人のデスクのパソコンがインターネット、メール利用できるようにして、外部者との連絡交流をスムーズにできるようにするとともに、事務作業の効率化をはかる。

③公民館職員自身が、一人の地域住民として公民館活動に参加したくなる事業を実施する。

④勤務時間体制を複数にして、朝から夜まで、あらゆる世代の地域住民が利用できる運営方法を工夫する。

⑤

の職員が計画実施する。

- ②
- ③
- ④
- ⑤

5. 社会人が、この地域で、生き生きと働き暮らせるような、学びを提供する

- ①地元の中小事業者、商工会議所、農協、ハローワーク、職業訓練校などと連携して、地元で働く生きがいと能力育成を支援する場を設ける。
- ②職場や仕事の悩み相談支援や、職場の福利厚生支援についてできることを検討する。
- ③地域の企業・団体の社員教育の内容を開発し、場を設ける。

④

6. 家族が、この地域で、仲良く楽しく暮らせるような、学びを提供する

- ①家族全員が参加して楽しみ、他の家族とも親睦をはかることができる。

読者皆さんの中で、この「いしよにつくろう！人生100年公民館」シート（A4用紙4枚）を使

つてみたい方には、メール添付さしあげます。皆さん各人のお考えを入れて改善活用いただければ幸いです。

そのシートの最後の余白には、以下の著作からの引用文も記載しました。人類史の中で最も長く続いたローマ帝国から学べることの一例です。この引用文中の「ローマ帝国」を皆様の公民館の地区名に置き換えてみていかがでしょうか？ それを置き換えた文章が実現できるとすれば、それが皆様の地区の人生100年公民館による姿なのではないかと思えます。

「…このローマ帝国は、一つの大きな家である。そこに住む人々は、ローマ帝国という大家族の一員であることを日々思わせてくれる、大きな一つの家なのである」
143年、20代後半のギリシャ人の学者アリストイデスが、ローマ皇帝アントニヌスと元老院議員

きる場と時間を設ける。

- ②家族内の問題や悩みを相談することができると、地域が家族を拡大した温かさを醸成していくことを心がける。

7. シニアが、この地域で、安心して暮らし、次世代がシニアに感謝できるように、学びを提供する

- ①自己の趣味や楽しみだけでなく、年長者として生きる役割と責任を学び合える場を設ける。
- ②シニア向けのスマホ・パソコン活用講座をもとに、在宅生活での孤立化を防ぐオンライン交流と支援する。

③デイケア介護施設と連携した公民館での交流事業を行う。

④終活を個人の人生の終わりの活動とせず、次世代につながる「周活」学習にする。

に行った講演の最後。

塩野七生『賢帝の世紀』ローマ人の物語IX（388頁、2000年、新潮社）

読者の皆さんがこの原稿を読まれている時には、先の宮城県の公民館大会兼公民館研究集会は終わっていますので、筆者の提案にどんな成果や課題があったか、ご関心ある方には、メールでお知らせいたします。

（まつだ・みちお 皆様のところでの「いっしょにつくろ」学び方、「人生100年公民館」づくり、お手伝いします！）

尚綱学院大学教授・宮城県名取市連絡先：
（m_matsuda@shokei.ac.jp）

【ご案内】
「発想する！授業」
オンラインでリアルな交流会
2月28日（月）20時～
最大22時まで
Zoomを使用します

ミーティングID:
818 2130 0205
パスコード:
yt5uzi

